

キャラクター名  
氷河 白兔 (ヒョウガ ハクト)

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス ノイマン		ワークス	ヒーローC	カヴァー	レスキュー
	モルフェウス			年齢	14歳 (中3)	性別
オプション	覚醒	素体	衝動	嫌悪	初期侵食率	47 %
出自	ヒーローの子		経験	大成功	邂逅	友人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	1		0			1	行動値	20
感覚	1		0		1	2	(非装備時)	20
精神	5	1	0		2	8	戦闘移動	25
社会	1		0			1	全力移動	50

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉		
回避			知覚			意志	6	1	調達	1	
運転:			芸術:			知識: 医学	3		情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
神埼の遺伝子	
パワースーツ:サイエンス	
ヒーローズクロス	
カテゴリ:ルーキー	
思い出の一品	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス: 輪廻の獣	P	N		
Dロイス: 業師	P	N		
REC: 薬王寺 結希	P	感謝	N	不安
被災地	P	尽力	N	不安
千隼 緋那	P	友情	N	劣等感
瑠璃浜 恵里	P	好意	N	不安
	P		N	

最大財産P: 4    残り財産P: 2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
原初の赤: 導きの華	5	5	メジャー	視界	単体	自動成功	-	
効果:	対象が次に行うメジャーアクションの判定の達成値+[Lv×2]。購入判定には効果発揮せず。基礎浸食率+3							
アドヴァイス	4	4	メジャー	視界	単体	自動成功	-	
効果:	ダイス+Lv個。C値-1 (下限6)							
戦場の魔術師	4	3	メジャー	-	3体	自動成功	リミット	
効果:	対象を3体に。1シナリオ[Lv+1]回。<アドヴァイス>と組み合わせ使用							
灰色の脳細胞	1	-	常時	至近	自身	自動成功	-	
効果:	行動値+[精神]。基礎浸食+2							
砂塵の帳	1	7	オート	視界	単体	自動成功	120%嫌悪	
効果:	相手の判定の直前に使用。判定を失敗させる。1シナリオ1回。							
原初の虚: ハイブリーディング	1	8	オート	視界	単体	自動成功	120%	
効果:	エフェクトの使用回数+1回。選択したエフェクトのコスト分HPを失う。1シナリオ1回。基礎浸食+3							
原初の黒: 時の棺	1	12	オート	視界	単体	自動成功	Dロイス	
効果:	相手の判定の直前に使用。判定を失敗させる。1シナリオ1回。基礎侵蝕+3							
レネゲイドディゾルバー	2	6	メジャー	至近	単体	自動成功	-	
効果:	オートエフェクトを打消す。1シナリオLv回							
生き字引	1	1	メジャー	至近	自身	-	-	
効果:	<情報:>判定を<意思>で行う							
コンセントレイト: ノイマン	3	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	Cr-Lv (下限7)							
原初の紫: 冥府の棺	1	3	オート	至近	自身	自動成功	-	
効果:	重圧を受けてても使用可能。バッドステータスを1個回復。基礎浸食+4							
イージーフェイカー: 偏差把握	★	-	メジャー	視界	シーン(選択)	自動成功	-	
効果:	重力の偏差を把握する。判定は<意思>。基礎浸食+1							
急速分解	★	-	メジャー	至近	効果参照	自動成功	-	
効果:	物品に触れるだけで砂に変えるエフェクト							

【設定】  
誕生日は2月17日  
今も活躍しているヒーロー: 氷河 虎徹, 元ヒーロー: 氷河 董の長男として生を受けた。姉である煉は生まれながらにしてオーヴァードであり、将来を期待されているヒーローの卵であったが、白兔はオーヴァードではなく非オーヴァードであった。両親や姉は白兔に対し非オーヴァードであることを攻めたりせず、むしろ白兔もきつとやりたいことが見つかるというも言ってくれていたが、世間の目は違った。両親と姉に比べられ、身勝手に同情され、身勝手に比べられた。学校でも、「父は凄い。」「姉は凄い。」その話のあとに必ずと言っていいほど、「何故、白兔はオーヴァードじゃないんだろう?」と言われ続けてきた。白兔はそんな周囲を嫌っていたし、両親や姉に嫉妬もしていた。周囲への逆りもきつくなり、不良のレッテルを張られるようになった。  
中学二年生のGW、家族と過ごすのは億劫で、友達もいなくなった白兔は一人行く当てもなく街を散歩していた。その時、運悪くヴィランの襲撃に合い体が8割損失。死亡と認定された。だが、白兔は目が覚めることができた。自分でも死んだと思っていたのに何故? そう思っていると、姉の煉が抱き付いてきた。  
煉「心配したんだから! もう! あんたがいなくなったら私生きていけないよ!」  
白兔「いきなり抱き着くな!!!...って何だこの声」自分の声がいくらも高くなっているのに気づく  
煉「はい鑑」手鏡を渡す  
それで白兔は自分の顔を見ると  
白兔「な、なんじゃこりゃああああああああ!!!」気が付くと体は女になっていた  
白兔「おい! 姉貴! 何で俺は女になってんだ!」  
煉「いやね。あんたの体はほとんど失われてたけど、脳は無事だったみたいで、体を複製して、脳を移植したら蘇るって言われたのよ。でもあんた非オーヴァードだからあんたの複製体は作れなくてね。私のレネゲイドウィルスで複製体をつくった結果。私に妹ができました!」  
白兔「ふっげけんな!!! クソ姉貴! 親父のレネゲイド使えば俺の体複製できただろ!」  
虎徹「妹が欲しいという煉の願いを無下にできなかった...反省はしているが、後悔はしていない!!!」  
白兔「馬鹿じゃねえの!!!? 元に戻しやがれ!」  
煉「いや、あんたもうオーヴァードだから、レネゲイドウィルスがあんたの体記憶してしまって、もう他のものじゃ無理よ」  
白兔「.....ってことは?」